

1 令和2年産果樹の結果樹面積・収穫量・出荷量の動向

令和2年産果樹の結果樹面積は17万1,800haで、前年産に比べ3,200ha（2%）減少した。
 収穫量は233万7,000tで、前年産に比べ1万3,000t（1%）減少し、出荷量は210万8,000tで、前年産並みとなった。

図1 果樹の結果樹面積・収穫量・出荷量の推移（全国）

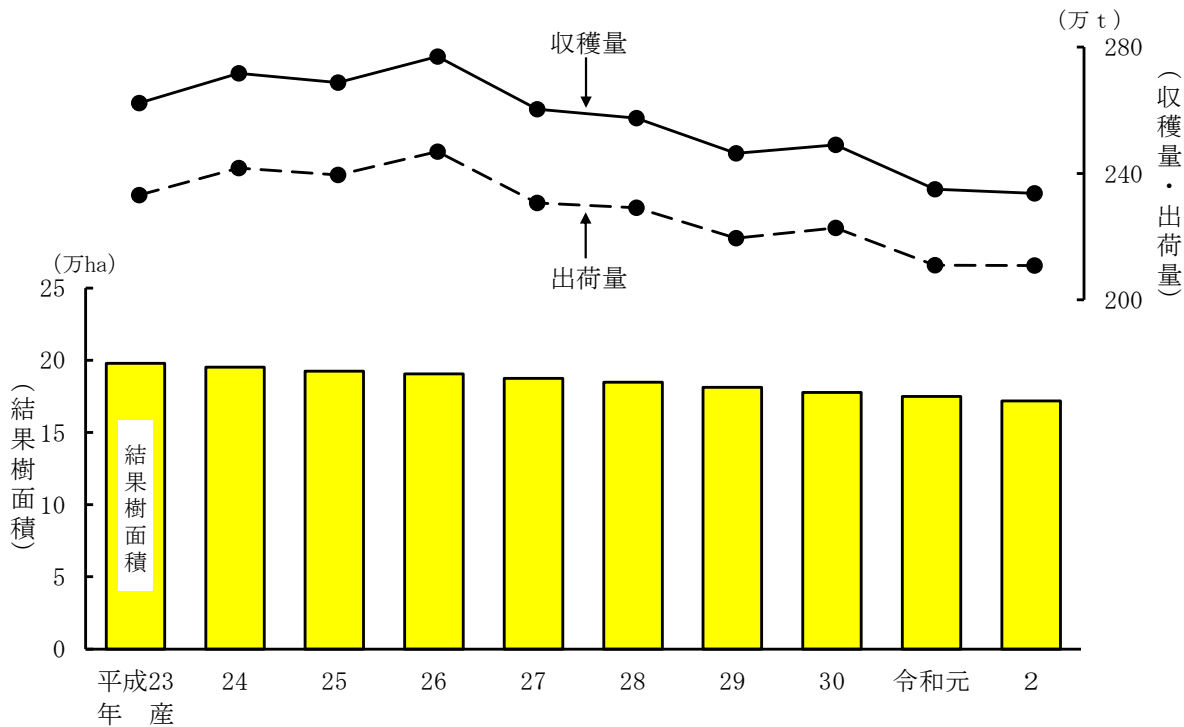


表1 令和2年産果樹の結果樹面積・10a当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品目 | 結果樹面積 | 10a当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 | 3) 対前年産比 | | | |
|------------|---------|----------|-----------|-----------|----------|----------|-----|-----|
| | | | | | 結果樹面積 | 10a当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 |
| | ha | kg | t | t | % | % | % | % |
| 1) 計 | 171,800 | ... | 2,337,000 | 2,108,000 | 98 | nc | 99 | 100 |
| みかん | 37,800 | 2,030 | 765,800 | 690,000 | 95 | 104 | 99 | 100 |
| りんご | 35,800 | 2,130 | 763,300 | 690,500 | 99 | 109 | 109 | 109 |
| 日本なし | 10,700 | 1,590 | 170,500 | 158,500 | 96 | 84 | 81 | 82 |
| 西洋なし | 1,420 | 1,950 | 27,700 | 24,500 | 98 | 98 | 96 | 96 |
| かき | 18,500 | 1,040 | 193,200 | 165,900 | 98 | 95 | 93 | 95 |
| びわ | 1,050 | 252 | 2,650 | 2,170 | 95 | 82 | 77 | 77 |
| もも | 9,290 | 1,060 | 98,900 | 91,300 | 97 | 94 | 92 | 92 |
| すもも | 2,730 | 604 | 16,500 | 14,800 | 99 | 92 | 91 | 93 |
| おうとう | 4,320 | 398 | 17,200 | 15,400 | 100 | 107 | 107 | 107 |
| うめ | 14,100 | 504 | 71,100 | 62,200 | 97 | 83 | 81 | 80 |
| ぶどう | 16,500 | 990 | 163,400 | 152,100 | 99 | 95 | 95 | 95 |
| くり | 17,400 | 97 | 16,900 | 13,600 | 98 | 110 | 108 | 109 |
| 2) パインアップル | 320 | 2,310 | 7,390 | 7,210 | 100 | 99 | 99 | 99 |
| キウイフルーツ | 1,900 | 1,180 | 22,500 | 19,900 | 100 | 89 | 89 | 88 |

注： 1) 計は、14品目の合計である。
 2) は、沖縄県の数値である。また、結果樹面積は収穫面積である。
 3) のみかんは、果実数が多くなる年（表年）と少なくなる年（裏年）とが交互に発生する傾向があることから、対前年産比については前々年産（平成30年産）と対比した。

2 品目別の結果樹面積・10a当たり収量・収穫量・出荷量

(1) みかん

ア 結果樹面積

結果樹面積は3万7,800haで、前年産に比べ900ha（2%）減少した。

なお、平成30年産に比べると1,800ha（5%）減少した。

これは、高齢化による労力不足に伴う廃園があったこと等による。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,030kgで、平成30年産に比べると80kg（4%）上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は76万5,800tで、平成30年産に比べると7,900t（1%）減少し、出荷量は69万tで、平成30年産並みとなった。

都道府県別の収穫量割合は、和歌山県が22%、静岡県が16%、愛媛県が15%、熊本県が11%、長崎県が6%となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図2 みかんの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

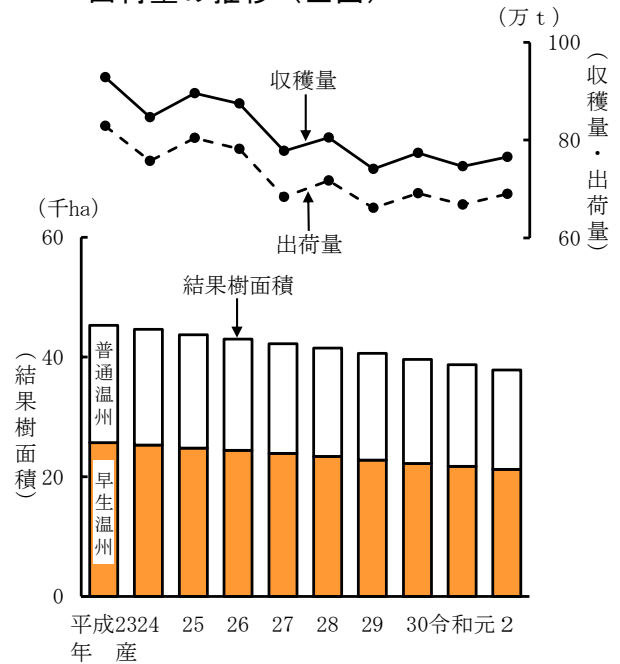
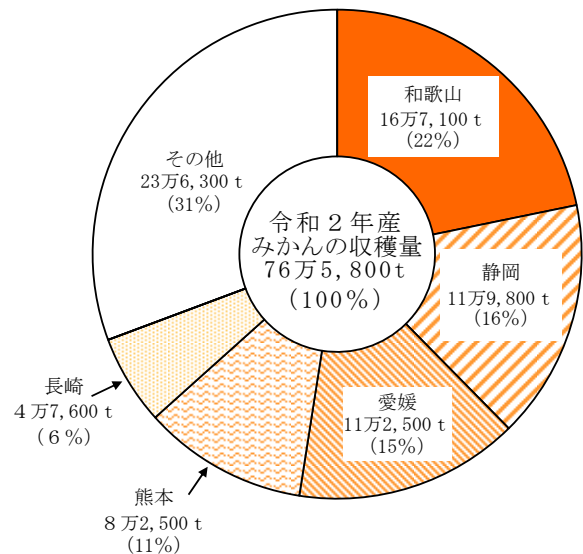


図3 みかんの都道府県別収穫量



注：統計数値及び割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

表2 令和2年産みかんの結果樹面積・10a当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 区分 | 結果樹面積 | 10a当たり収量 | 収穫量 | | 出荷量 | 対30年産比 | | | | |
|----------|--------|----------|---------|-----|---------|--------|-------|-------|----------|-----|
| | | | 実数 | 割合 | | 対元年産比 | 結果樹面積 | 結果樹面積 | 10a当たり収量 | 収穫量 |
| | ha | kg | t | % | t | % | % | % | % | % |
| みかん | 37,800 | 2,030 | 765,800 | 100 | 690,000 | 98 | 95 | 104 | 99 | 100 |
| 早生温州 | 21,200 | 2,060 | 437,300 | 57 | 397,400 | 98 | 95 | 104 | 99 | 99 |
| うち極早生みかん | 6,080 | 1,890 | 115,100 | 15 | 105,500 | 96 | 93 | 103 | 96 | 96 |
| ハウスみかん | 377 | 4,880 | 18,400 | 2 | 17,600 | 97 | 94 | 98 | 92 | 92 |
| 普通温州 | 16,600 | 1,980 | 328,400 | 43 | 292,600 | 98 | 95 | 104 | 99 | 101 |

注：みかんは、果実数が多くなる年（表年）と少なくなる年（裏年）とが交互に発生する傾向があることから、結果樹面積は前年産（令和元年産）及び前々年産（平成30年産）と、10a当たり収量、収穫量及び出荷量は前々年産（平成30年産）と対比した。

(2) りんご

ア 結果樹面積

結果樹面積は3万5,800haで、前年産に比べ200ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は2,130kgで、前年産に比べ180kg（9%）上回った。

これは、青森県において、おおむね天候に恵まれ、果実の肥大が良好だったことに加え、長野県において、台風被害により作柄の悪かった前年産に比べて被害が少なく、生育が良好だったこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は76万3,300t、出荷量は69万500tで、前年産に比べそれぞれ6万1,700t（9%）、5万7,700t（9%）増加した。

都道府県別の収穫量割合は、青森県が61%、長野県が18%、岩手県が6%となっており、この3県で全国の約9割を占めている。

図4 りんごの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

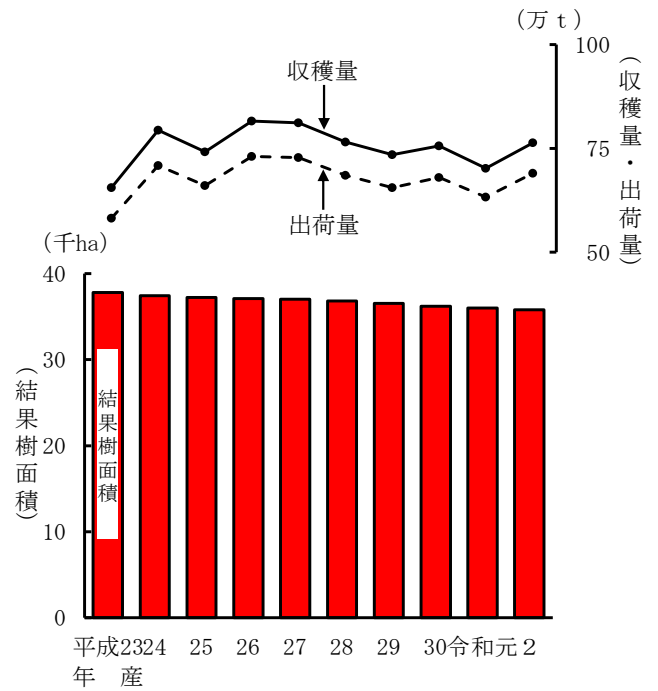


図5 りんごの都道府県別収穫量

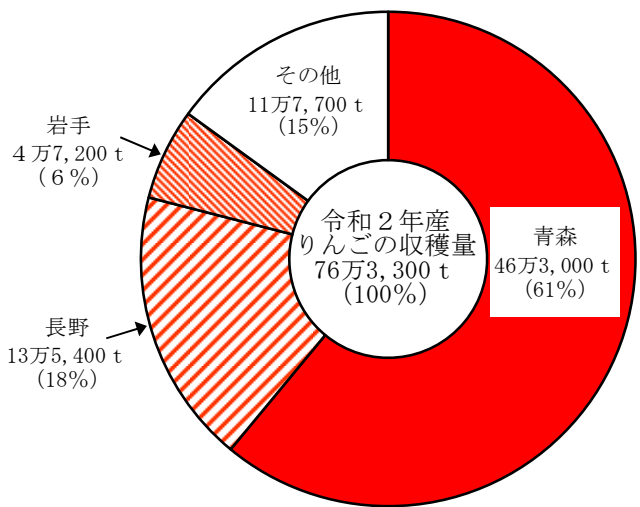


表3 令和2年産りんごの結果樹面積・10a 当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 区分 | 結果樹面積 | 10a 当たり収 | 収穫量 | | 出荷量 | 対前年産比 | | | |
|---------|--------|----------|---------|-----|---------|-------|----------|-----|-----|
| | | | 実数 | 割合 | | 結果樹面積 | 10a 当たり収 | 収穫量 | 出荷量 |
| | ha | kg | t | % | t | % | % | % | % |
| りんご | 35,800 | 2,130 | 763,300 | 100 | 690,500 | 99 | 109 | 109 | 109 |
| うちふじ | 18,200 | 2,160 | 392,800 | 51 | 358,300 | 99 | 111 | 109 | 110 |
| つがる | 4,440 | 1,900 | 84,300 | 11 | 75,900 | 99 | 110 | 109 | 109 |
| 王林 | 2,670 | 1,900 | 50,700 | 7 | 45,900 | 98 | 100 | 98 | 98 |
| ジョナゴールド | 2,390 | 1,910 | 45,600 | 6 | 41,500 | 98 | 108 | 105 | 106 |

(3) 日本なし

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万700haで、前年産に比べ400ha（4％）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,590kgで、前年産に比べ300kg（16％）下回った。

これは、茨城県、栃木県及び千葉県において、開花受粉期の低温により着果数が減少したことに加え、夏季の天候不順により生育障害（みつ症）が多発したこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は17万500t、出荷量は15万8,500tで、前年産に比べそれぞれ3万9,200t（19％）、3万5,400t（18％）減少した。

都道府県別の収穫量割合は、千葉県が11％、長野県、茨城県及び福島県がそれぞれ8％、栃木県が7％、鳥取県が6％となっており、この6県で全国の約5割を占めている。

図6 日本なしの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

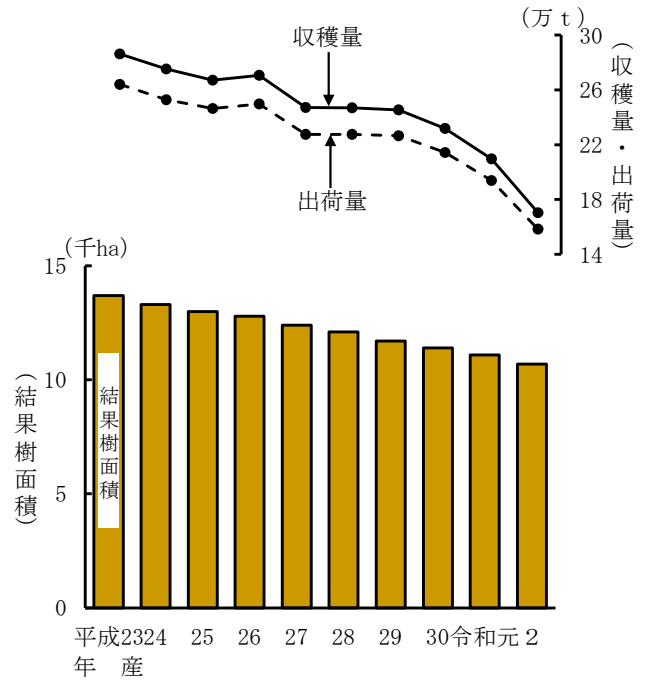


図7 日本なしの都道府県別収穫量

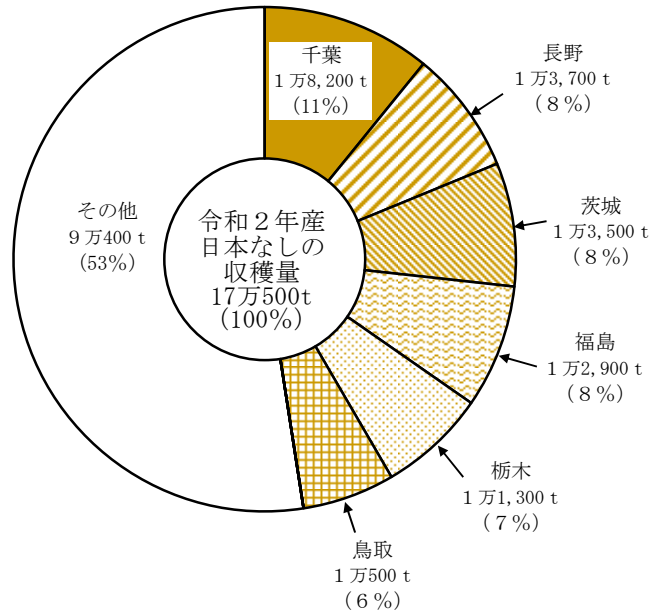


表4 令和2年産日本なしの結果樹面積・10a 当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品 目 | 結果樹面積 | 10a 当たり収 | 収穫量 | 出荷量 | 対 前 年 産 比 | | | |
|---------|--------|----------|---------|---------|-----------|------------|-------|-------|
| | | | | | 結 果 樹 面 積 | 10a 当 たり 収 | 収 穫 量 | 出 荷 量 |
| | ha | kg | t | t | % | % | % | % |
| 日 本 な し | 10,700 | 1,590 | 170,500 | 158,500 | 96 | 84 | 81 | 82 |

(4) 西洋なし

ア 結果樹面積

結果樹面積は1,420haで、前年産に比べ30ha（2%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,950kgで、前年産に比べ40kg（2%）下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万7,700t、出荷量は2万4,500tで、前年産に比べそれぞれ1,200t（4%）、1,000t（4%）減少した。

都道府県別の収穫量割合は、山形県が全国の約7割を占めている。

図8 西洋なしの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

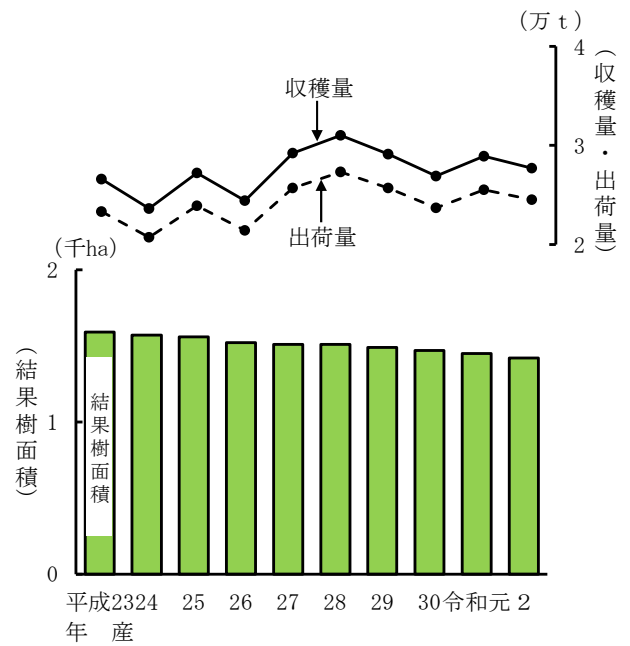


図9 西洋なしの都道府県別収穫量

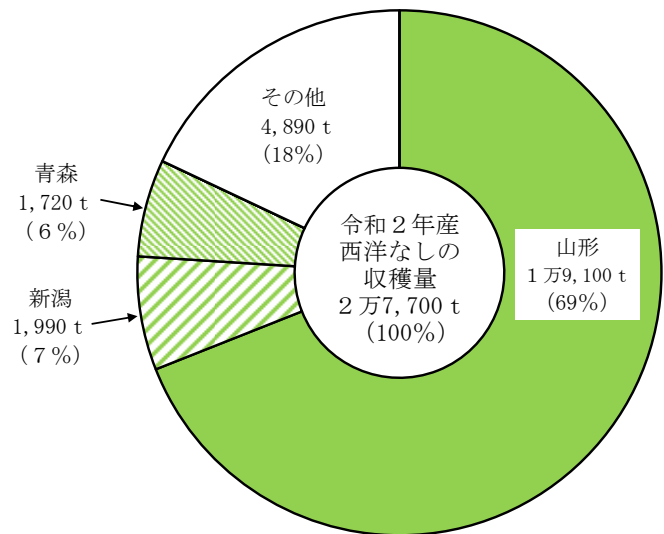


表5 令和2年産西洋なしの結果樹面積・10a 当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品目 | 結果樹面積 | 10a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 | 対前年産比 | | | |
|------|-------|-----------|--------|--------|-------|-----------|-----|-----|
| | | | | | 結果樹面積 | 10a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 |
| 西洋なし | ha | kg | t | t | % | % | % | % |
| | 1,420 | 1,950 | 27,700 | 24,500 | 98 | 98 | 96 | 96 |

(5) かき

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万8,500haで、前年産に比べ400ha（2%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,040kgで、前年産に比べ60kg（5%）下回った。

これは、奈良県、和歌山県及び岐阜県において、8月の高温少雨により果実の肥大が抑制され、小玉傾向になったこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は19万3,200t、出荷量は16万5,900tで、前年産に比べそれぞれ1万5,000t（7%）、9,400t（5%）減少した。

都道府県別の収穫量割合は、和歌山県が21%、奈良県が14%、福岡県が8%、岐阜県及び愛知県がそれぞれ6%となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

図10 かきの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

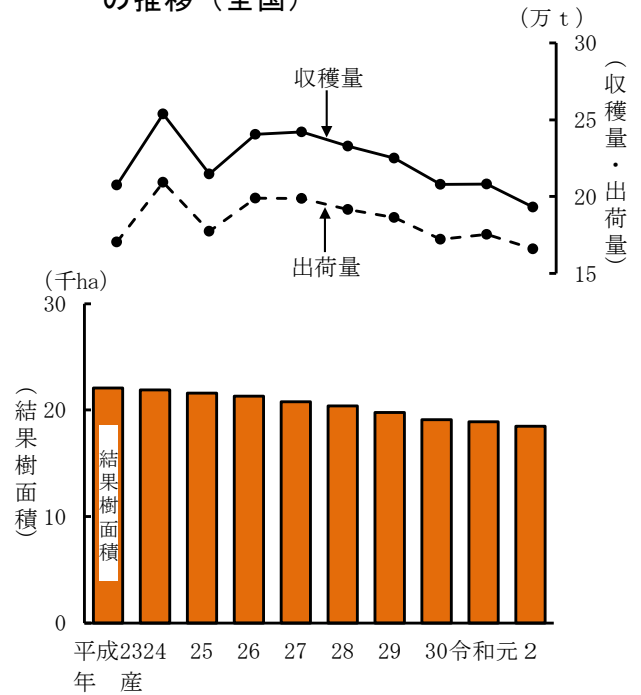


図11 かきの都道府県別収穫量

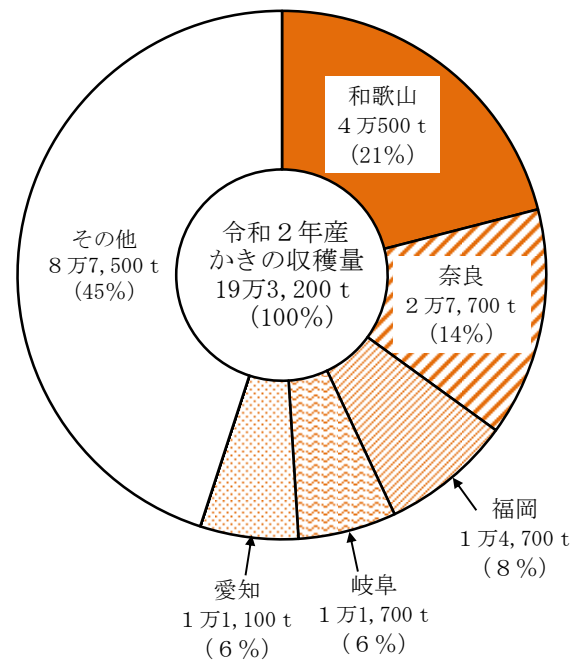


表6 令和2年産かきの結果樹面積・10a 当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品目 | 結果樹面積 | 10a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 | 対前年産比 | | | |
|----|--------|-----------|---------|---------|-------|-----------|-----|-----|
| | | | | | 結果樹面積 | 10a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 |
| | ha | kg | t | t | % | % | % | % |
| かき | 18,500 | 1,040 | 193,200 | 165,900 | 98 | 95 | 93 | 95 |

(6) びわ

ア 結果樹面積

結果樹面積は1,050haで、前年産に比べ60ha（5%）減少した。

これは、高齢化による労力不足に伴う廃園があったこと等による。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は252kgで、前年産に比べ57kg（18%）下回った。

これは、長崎県において、昨年の台風第17号の潮風害により着果数が減少したこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2,650t、出荷量は2,170tで、前年産に比べそれぞれ780t（23%）、650t（23%）減少した。

都道府県別の収穫量割合は、長崎県が25%、千葉県が19%、鹿児島県が9%、香川県が8%、兵庫県が6%となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図 12 びわの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

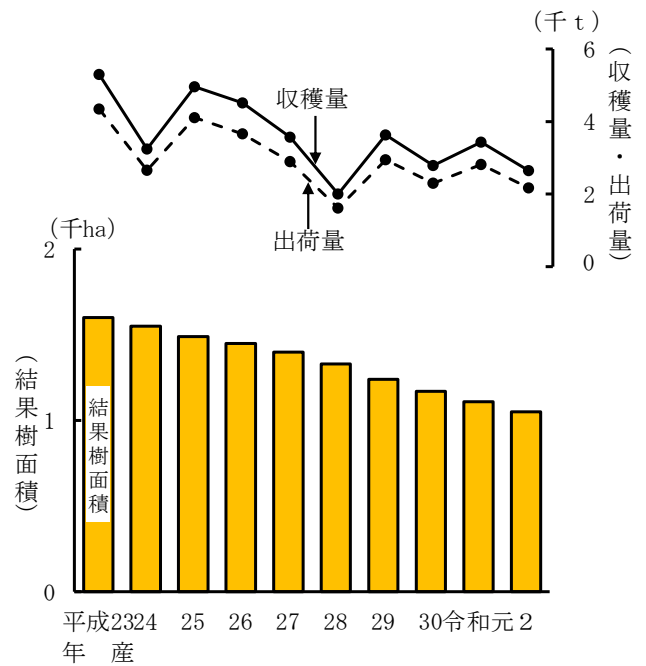


図 13 びわの都道府県別収穫量

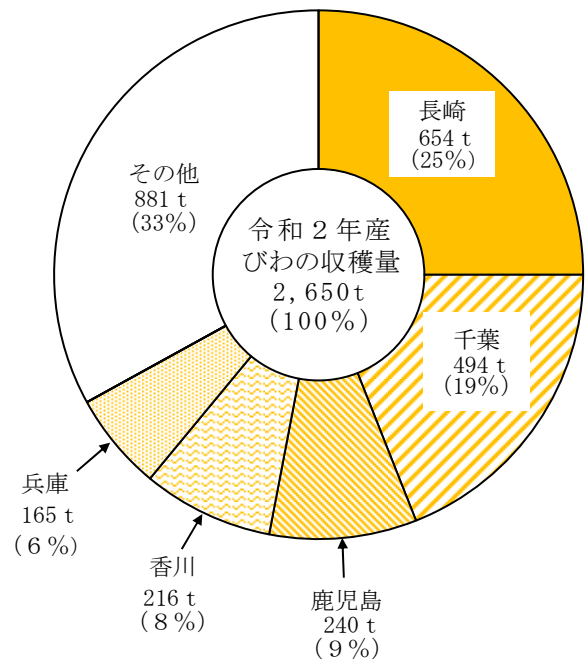


表 7 令和2年産びわの結果樹面積・10a 当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品 目 | 結果樹面積 | 10a 当たり収 | 収 穫 量 | 出 荷 量 | 対 前 年 産 比 | | | |
|-----|-------|----------|-------|-------|-----------|------------|-------|-------|
| | | | | | 結 果 樹 積 面 | 10a 当 たり 収 | 収 穫 量 | 出 荷 量 |
| | ha | kg | t | t | % | % | % | % |
| び わ | 1,050 | 252 | 2,650 | 2,170 | 95 | 82 | 77 | 77 |

(7) もも

ア 結果樹面積

結果樹面積は9,290haで、前年産に比べ250ha（3%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,060kgで、前年産に比べ70kg（6%）下回った。

これは、主に福島県において、4月中旬からの低温により着果数が少なかったこと、7月の長雨、日照不足により果実の軟化が発生したことに加え、福島県及び長野県等において、モモせん孔細菌病が多発したこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は9万8,900t、出荷量は9万1,300tで、前年産に比べそれぞれ9,000t（8%）、8,200t（8%）減少した。

都道府県別の収穫量割合は、山梨県が31%、福島県が23%、長野県が10%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図 14 ももの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

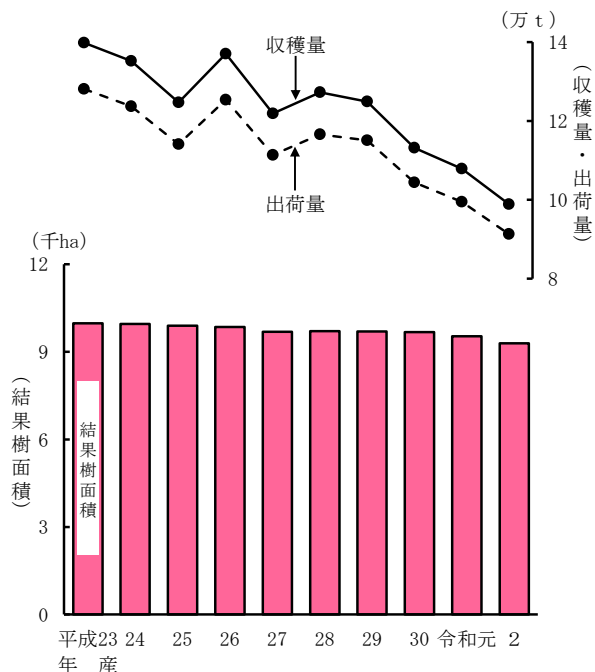


図 15 ももの都道府県別収穫量

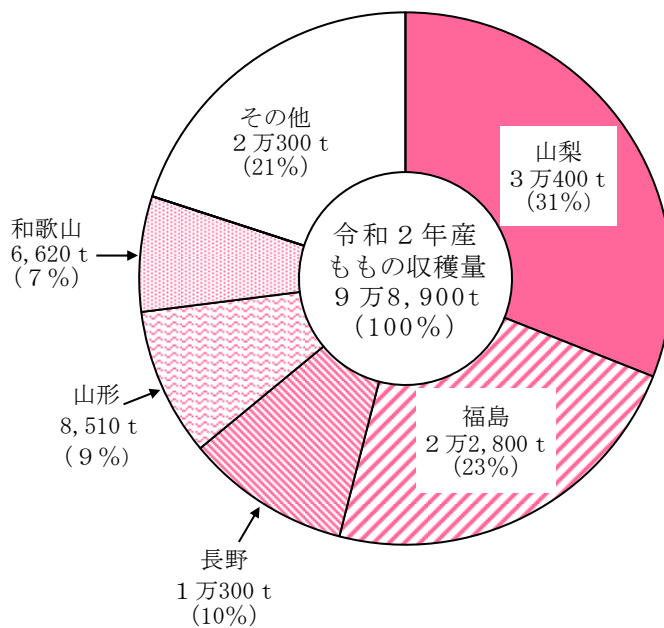


表 8 令和2年産ももの結果樹面積・10a 当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品目 | 結果樹面積 | 10a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 | 対前年産比 | | | |
|----|-------|-----------|--------|--------|-------|-----------|-----|-----|
| | | | | | 結果樹面積 | 10a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 |
| | ha | kg | t | t | % | % | % | % |
| もも | 9,290 | 1,060 | 98,900 | 91,300 | 97 | 94 | 92 | 92 |

(8) すもも

ア 結果樹面積

結果樹面積は2,730haで、前年産に比べ40ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は604kgで、前年産に比べ49kg（8%）下回った。

これは、和歌山県において、4月から6月の少雨の影響により果実の肥大が抑制されたこと等や、長野県において、開花期の低温により着果数が少なかったこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万6,500t、出荷量は1万4,800tで、前年産に比べそれぞれ1,600t（9%）、1,200t（7%）減少した。

都道府県別の収穫量割合は、山梨県が32%、長野県が15%、山形県が11%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図 16 すももの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

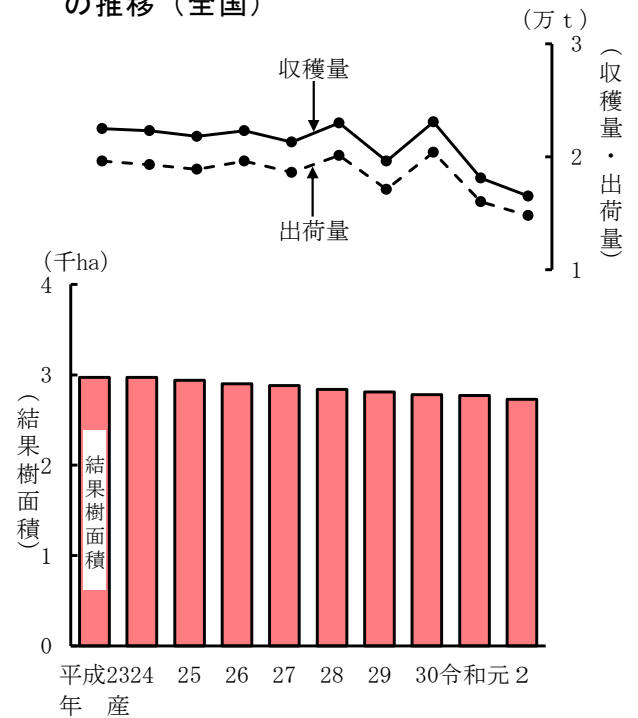


図 17 すももの都道府県別収穫量

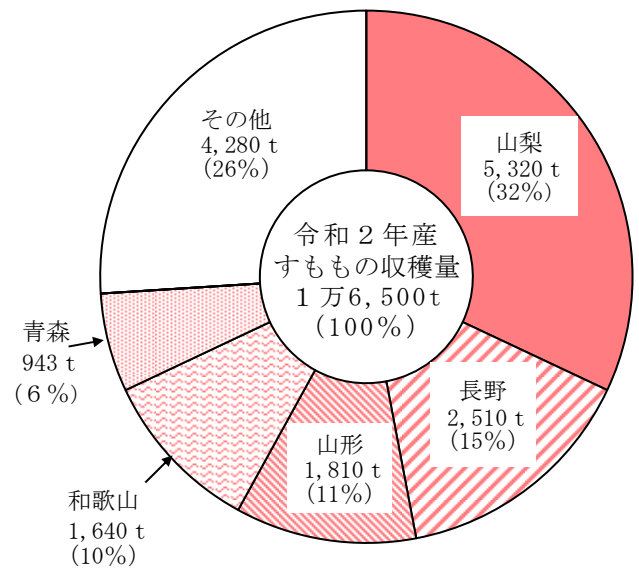


表 9 令和2年産すももの結果樹面積・10a 当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品 目 | 結果樹面積 | 10a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 | 対前年産比 | | | |
|-----|-------|-----------|--------|--------|-------|-----------|-----|-----|
| | | | | | 結果樹面積 | 10a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 |
| | ha | kg | t | t | % | % | % | % |
| すもも | 2,730 | 604 | 16,500 | 14,800 | 99 | 92 | 91 | 93 |

(9) おうとう

ア 結果樹面積

結果樹面積は4,320haで、前年産並みとなった。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は398kgで、前年産に比べ25kg（7%）上回った。

これは、山形県において、5月の少雨及び6月の高温により果実の肥大が抑制され、小玉傾向となったものの、作柄の悪かった前年産を上回ったこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万7,200t、出荷量は1万5,400tで、前年産に比べそれぞれ1,100t（7%）、1,000t（7%）増加した。

都道府県別の収穫量割合は、山形県が全国の約8割を占めている。

図 18 おうとうの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

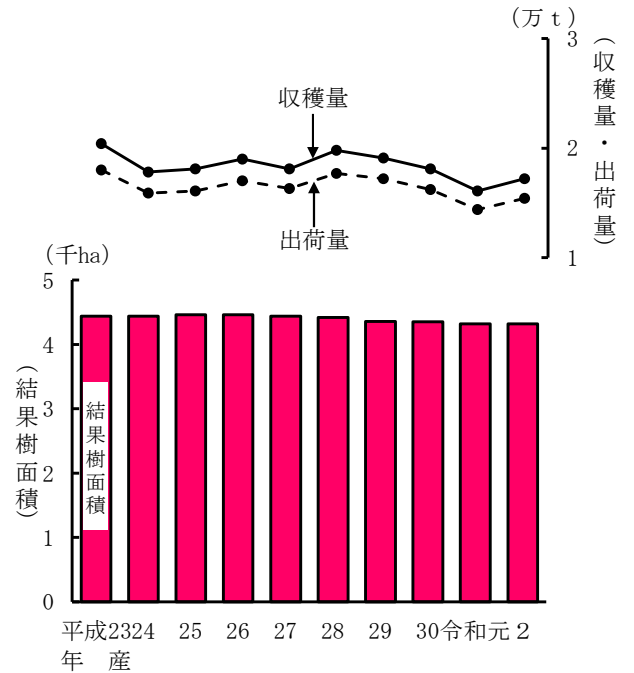


図 19 おうとうの都道府県別収穫量

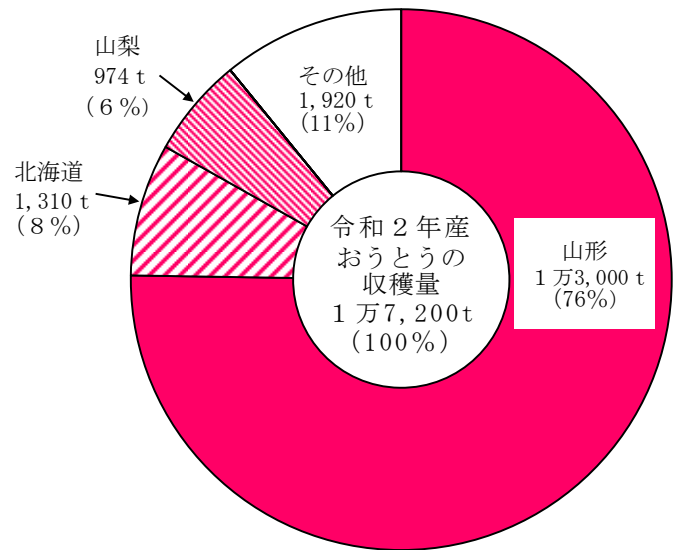


表 10 令和2年産おうとうの結果樹面積・10a 当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品 目 | 結果樹面積 | 10a 当たり収 | 収 穫 量 | 出 荷 量 | 対 前 年 産 比 | | | |
|---------|-------|----------|--------|--------|-----------|------------|-------|-------|
| | | | | | 結 果 樹 面 積 | 10a 当 たり 収 | 収 穫 量 | 出 荷 量 |
| | ha | kg | t | t | % | % | % | % |
| お う と う | 4,320 | 398 | 17,200 | 15,400 | 100 | 107 | 107 | 107 |

(10) うめ

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万4,100haで、前年産に比べ400ha（3%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は504kgで、前年産に比べ104kg（17%）下回った。

これは、和歌山県において、2月から3月の開花期間中に、低温や降雨により受精不良となり着果数が少なかったことに加え、4月から6月の果実肥大期に、少雨の影響により果実の肥大が抑制されたこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は7万1,100t、出荷量は6万2,200tで、前年産に比べそれぞれ1万7,000t（19%）、1万5,500t（20%）減少した。

都道府県別の収穫量割合は、和歌山県が全国の約6割を占めている。

図20 うめの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

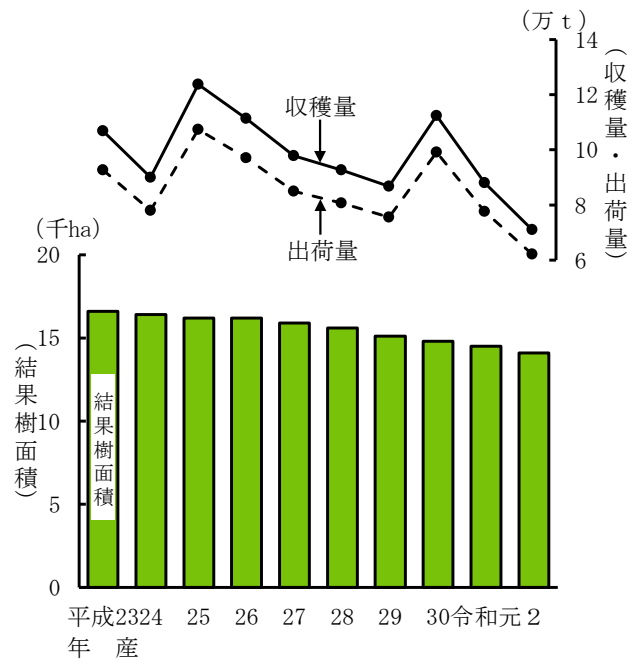


図21 うめの都道府県別収穫量

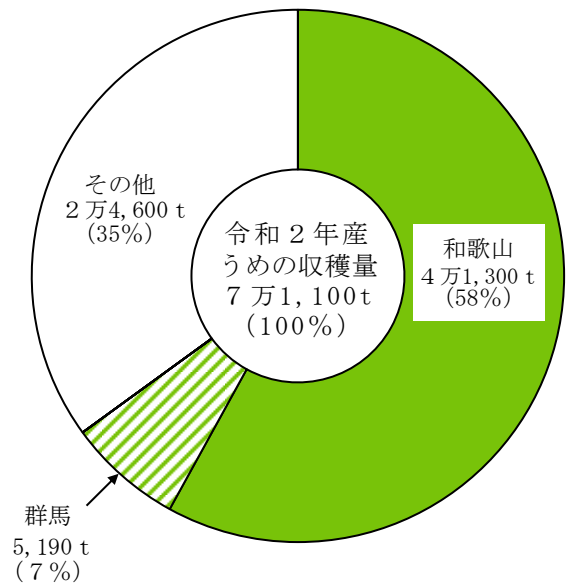


表11 令和2年産うめの結果樹面積・10a 当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品目 | 結果樹面積 | 10a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 | 対前年産比 | | | |
|----|--------|-----------|--------|--------|-------|-----------|-----|-----|
| | | | | | 結果樹面積 | 10a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 |
| | ha | kg | t | t | % | % | % | % |
| うめ | 14,100 | 504 | 71,100 | 62,200 | 97 | 83 | 81 | 80 |

(11) ぶどう

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万6,500haで、前年産に比べ100ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は990kgで、前年産に比べ50kg（5%）下回った。

これは、山梨県及び岡山県において、7月の日照不足、8月の高温少雨の影響で果粒の軟化や肥大不良が発生したことに加え、山梨県でべと病及び晩腐病が発生したこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は16万3,400t、出荷量は15万2,100tで、前年産に比べそれぞれ9,300t（5%）、8,400t（5%）減少した。

都道府県別の収穫量割合は、山梨県が21%、長野県が20%、山形県が9%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図 22 ぶどうの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

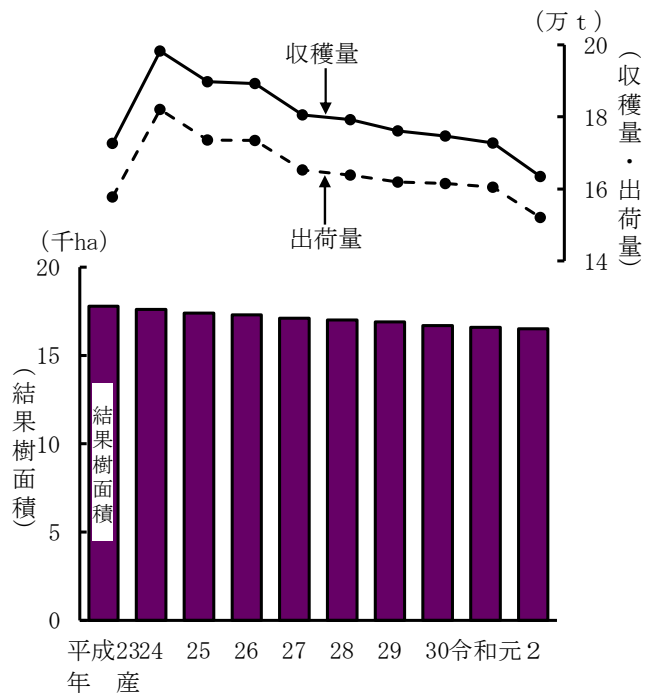


図 23 ぶどうの都道府県別収穫量

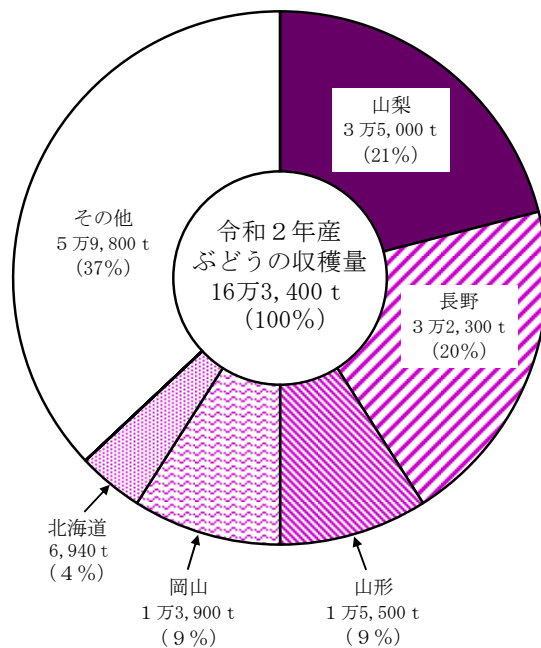


表 12 令和2年産ぶどうの結果樹面積・10a 当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品 目 | 結果樹面積 | 10a 当たり収 | 量 | 収穫量 | 出荷量 | 対 前 年 産 比 | | | |
|-------|--------|----------|---------|---------|-----|-----------|--------------|-------|-------|
| | | | | | | 結 果 樹 面 積 | 10a 当 たり 収 量 | 収 穫 量 | 出 荷 量 |
| | ha | kg | t | t | % | % | % | % | |
| ぶ ど う | 16,500 | 990 | 163,400 | 152,100 | 99 | 95 | 95 | 95 | |

(12) くり

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万7,400haで、前年産に比べ400ha（2%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は97kgで、前年産に比べ9kg（10%）上回った。

これは、茨城県において、果実肥大期の日照不足の影響により小玉傾向となったものの、台風被害により作柄の悪かった前年産を上回ったこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万6,900t、出荷量は1万3,600tで、前年産に比べそれぞれ1,200t（8%）、1,100t（9%）増加した。

都道府県別の収穫量割合は、茨城県が22%、熊本県が14%、愛媛県が9%、岐阜県が5%となっており、この4県で全国の5割を占めている。

図 24 くりの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

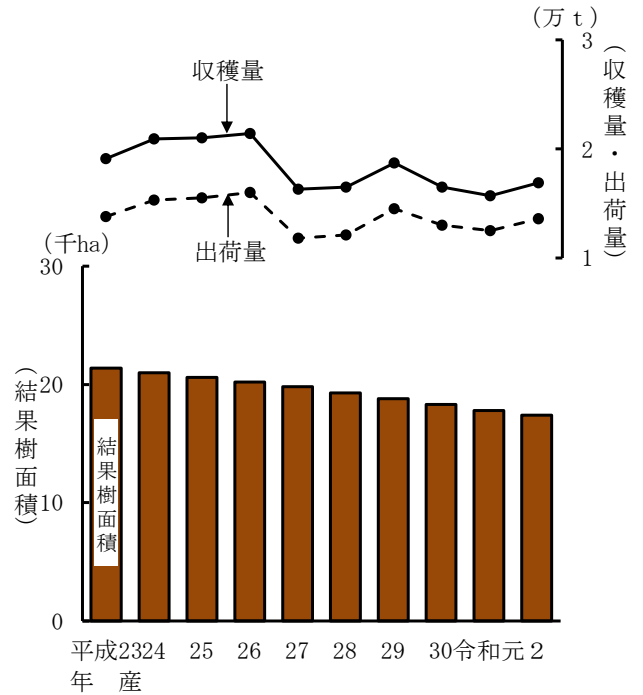


図 25 くりの都道府県別収穫量

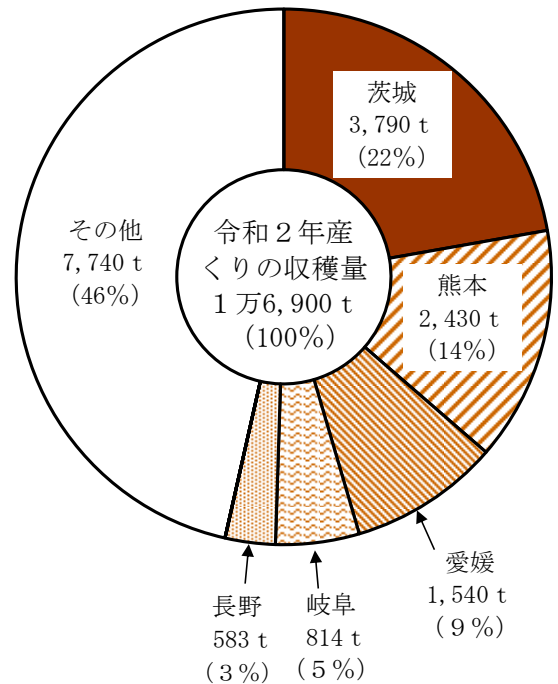


表 13 令和2年産くりの結果樹面積・10a 当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品 目 | 結果樹面積 | 10a 当たり収 | 収穫量 | 出荷量 | 対 前 年 産 比 | | | |
|-----|--------|----------|--------|--------|-----------|--------------|-------|-------|
| | | | | | 結 果 樹 面 積 | 10a 当 たり 収 量 | 収 穫 量 | 出 荷 量 |
| | ha | kg | t | t | % | % | % | % |
| くり | 17,400 | 97 | 16,900 | 13,600 | 98 | 110 | 108 | 109 |

(13) パインアップル（沖縄県）

ア 収穫面積

収穫面積は320haで、前年産並みとなった。

イ 10 a 当たり収量

10 a 当たり収量は2,310kgで、前年産に比べ20kg（1%）下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は7,390 t、出荷量は7,210 tで、前年産に比べいずれも70 t（1%）減少した。

出荷量を用途別にみると、生食向けは4,990 t（69%）、加工向けは2,220 t（31%）となっている。

図 26 パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量の推移（沖縄県）

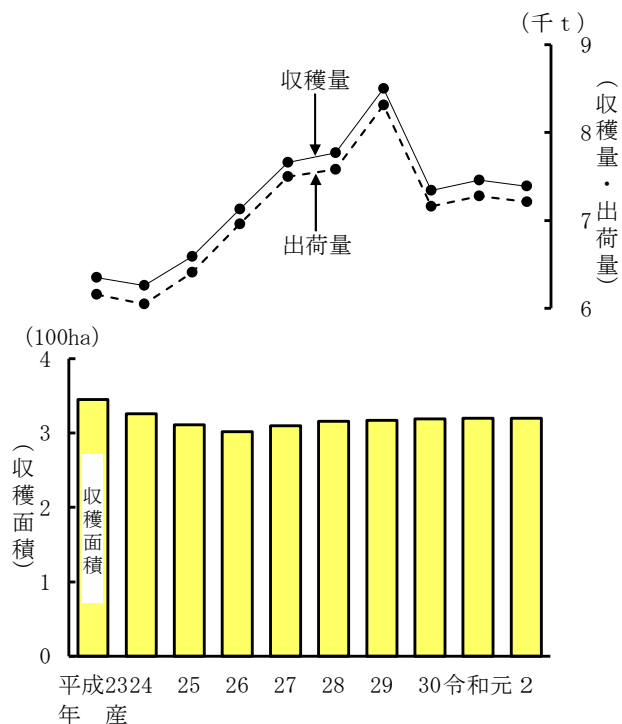


図 27 パインアップルの用途別出荷量（沖縄県）

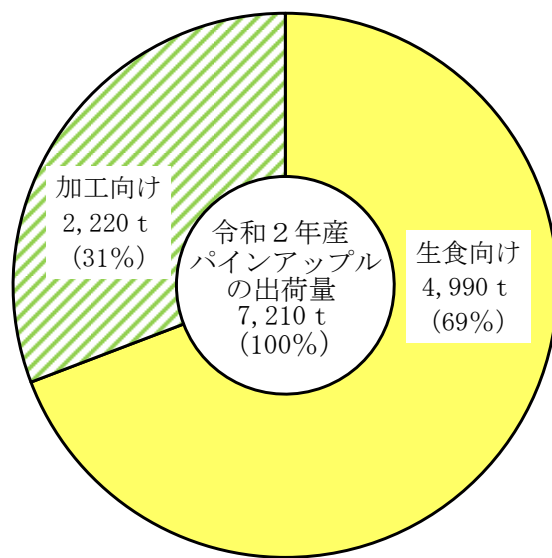


表 14 令和2年産パインアップルの収穫面積・10 a 当たり収量・収穫量・出荷量（沖縄県）

| 区分 | 収穫面積 | 10 a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 | | | 対前年産比 | | | | | |
|----|------|------------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|-----|-----|------|------|
| | | | | 計 | 生食向け | 加工向け | 収穫面積 | 10 a 当たり収量 | 収穫量 | 出荷量 | | |
| | | | | | | | | | | 計 | 生食向け | 加工向け |
| ha | kg | t | t | t | t | t | % | % | % | % | % | % |
| 沖縄 | 320 | 2,310 | 7,390 | 7,210 | 4,990 | 2,220 | 100 | 99 | 99 | 99 | 105 | 88 |

(14) キウイフルーツ

ア 結果樹面積

結果樹面積は1,900haで、前年産並みとなった。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,180kgで、前年産に比べ150kg（11%）下回った。

これは、福岡県において、4月上旬の晩霜の影響により着果数が減少したことに加え、愛媛県において、6月下旬から7月中旬の長雨、日照不足及び8月上旬から8月下旬の高温、少雨により果実の肥大が抑制されたこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万2,500t、出荷量は1万9,900tで、前年産に比べそれぞれ2,800t（11%）、2,600t（12%）減少した。

都道府県別の収穫量割合は、愛媛県が21%、福岡県が16%、和歌山県が15%、神奈川県が6%、静岡県が4%となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

図 28 キウイフルーツの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

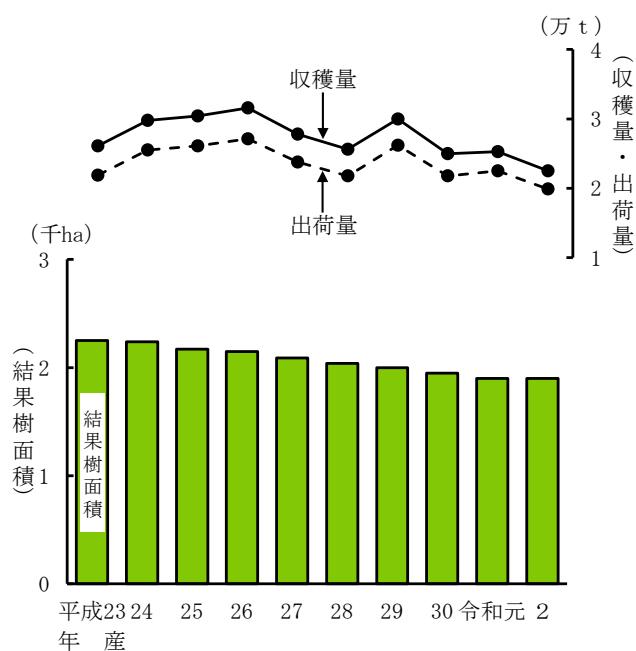


図 29 キウイフルーツの都道府県別収穫量

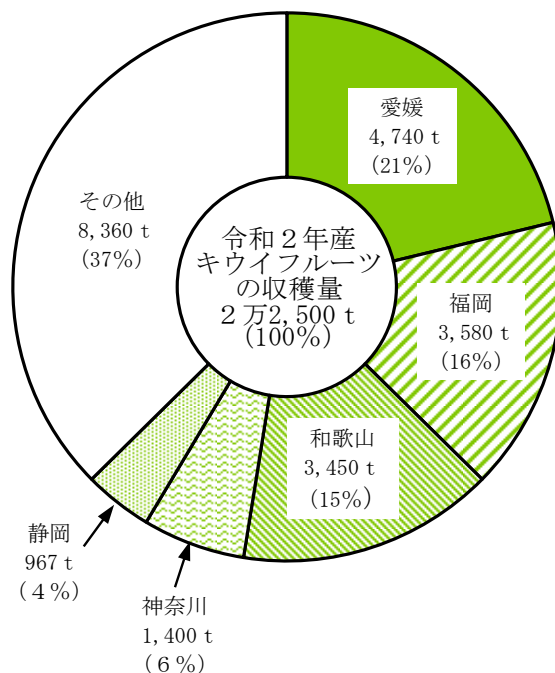


表 15 令和2年産キウイフルーツの結果樹面積・10a当たり収量・収穫量・出荷量（全国）

| 品目 | 結果樹面積 | 10a当たり収 | 収穫量 | 出荷量 | 対前年産比 | | | |
|---------|-------|---------|--------|--------|-------|---------|-----|-----|
| | | | | | 結果樹面積 | 10a当たり収 | 収穫量 | 出荷量 |
| | ha | kg | t | t | % | % | % | % |
| キウイフルーツ | 1,900 | 1,180 | 22,500 | 19,900 | 100 | 89 | 89 | 88 |